

日商簿記3級 頻出論点だけで合格ライン講座

第1回 / 全6回

簿記の超基礎

仕訳のルールと貸借対照表(B/S)・損益計算書(P/L)の5要素

目次

内容	ページ
日商簿記3級 試験概要	3
受験の戦略	4
簿記とは	5
簿記一巡の流れ	6
仕訳→総勘定元帳→決算整理→財務諸表の流れ	7
勘定科目と簿記の5要素	8
仕訳のルール	9
仕訳のコツ	10
演習1 5要素の分類	12
演習2 借方・貸方の判定	14
演習3 基本の仕訳①	16
演習4 基本の仕訳②(複合)	18

このシリーズの進み方

第1回 / 全6回

- ・ **2019年の改定以降、繰り返し出題されている論点だけに絞った全6回シリーズです**
 - － 第1回 簿記の超基礎(仕訳のルール・B/S・P/L)
 - － 第2回 仕訳の超頻出13パターン①(第1問対策、パターン1～6)
 - － 第3回 仕訳の超頻出13パターン②(第1問対策、パターン7～13)
 - － 第4回 決算整理9大論点(第3問の土台・最重要)
 - － 第5回 財務諸表の作成
 - － 第6回 第2問対策(伝票・補助簿・勘定記入)

日商簿記3級 試験概要

まずは試験の全体像を押さえておきましょう

項目	内容
試験時間	60分
配点・合格基準	100点満点、70点以上で合格
出題構成	第1問45点(仕訳15問)／第2問20点／第3問35点
受験方式	統一試験(年3回)／ネット試験(CBT方式、随時受験可)

項目	統一試験	ネット試験(CBT)
受験日	年3回(6・11・2月)	ほぼ毎日、随時
解答方法	手書き	PC入力
合格発表	数週間後	その場で即判明
出題範囲・難易度・基準	同じ	同じ

受験の戦略

限られた60分を、どこに使うかで合否が決まる

大問	難易度	本番の時間配分
第1問(仕訳)	低	20分
第2問(補助簿等)	高	15分
第3問(決算書)	中	25分

第2問は難易度が高く差がつきにくい → 第1問・第3問の対策が合否を分ける

学習配分の日安:講義2割・問題演習8割 → インプットよりアウトプット重視

簿記の学習に必要なもの:筆記用具・電卓

簿記とは

- ・ 簿記:会社のお金・財産の動きを一定のルールで記録する技術
- ・ ゴールは2つの書類を作ること
 - － 貸借対照表(B/S)：決算日時点の「財産の一覧表」
 - － 損益計算書(P/L)：1年間の「儲けの一覧表」
 - － この2つを合わせて**財務諸表**と呼ぶ

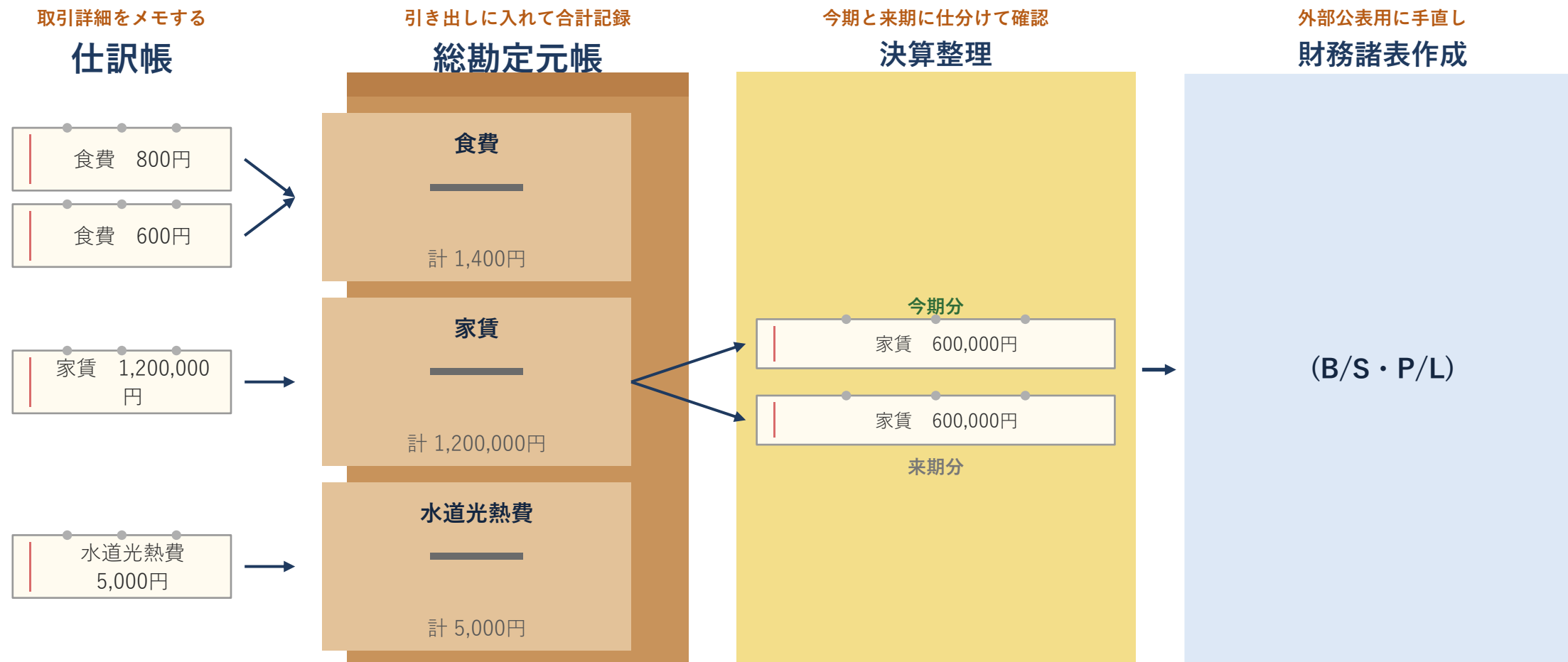
簿記一巡の流れ(このシリーズの地図)

この流れを「簿記一巡の手続」と呼び、3級試験はこの流れをそのまま出題する

簿記の作業	日常生活でたとえると
① 取引が発生する	スーパーで買い物をする
② 仕訳をする(仕訳帳)	メモ帳に日々の出費(日付、買ったもの、金額)を記録する → 取引詳細の記録
③ 総勘定元帳に転記する	出費のメモを、項目(食費・交通費など)ごとに引き出しに入れて集計する → 出費項目ごとの合計金額の記録
④ 決算整理をする	年末に前払い分などを見直して帳尻を合わせる
⑤ 財務諸表(B/S・P/L)を作る	1年間の収支表と財産の一覧表を完成させる



仕訳→総勘定元帳→決算整理→財務諸表の流れ



勘定科目と簿記の5要素

勘定科目：「現金」「売上」など、取引の内容を表現するために付ける名前。それぞれが5要素のどれかに必ず分類される

区分	意味	勘定科目
資産	会社が持つ財産	現金・売掛金・備品・建物
負債	将来支払う義務	買掛金・借入金・未払金
純資産	自分で集めたお金	資本金・繰越利益剰余金・利益準備金
収益	儲けの原因	売上・受取手数料・受取利息
費用	儲けを減らす原因	給料・支払家賃・水道光熱費

仕訳のルール

- ・ 仕訳：取引の内容を借方・貸方に分けて記録すること
 - － 「(借方科目 金額) / (貸方科目 金額)」の形で書く
 - － 借方合計と貸方合計は必ず一致する(一致しなければ計算ミス)

借方（左）

- ・ 資産　－　増えた／受け取ったとき
- ・ 費用　－　発生した／使ったとき

貸方（右）

- ・ 負債　－　増えた／借りたとき
- ・ 純資産　－　増えたとき
- ・ 収益　－　発生・受け取ったとき

減った・取り消したときは「反対側」に書くだけ

仕訳のコツ

- ・ 仕訳のコツ：取引を原因と結果に分けて仕訳を考える
- ・ 例:ペン500円分を販売し、代金を現金で受け取った
 - － 現金 500 / 売上 500
 - － 原因：ペンを販売した→売上が増える→売上は収益だから貸方に記録する
 - － 結果：現金を受け取った→現金が増える→現金は資産だから借方に記録する

演習で使う勘定科目

このあとの演習で登場する科目です。先に意味だけ軽く確認しておきましょう

科目	意味	科目	意味
現金	手元にある紙幣・硬貨	売掛金	商品の代金を後でもらう権利
借入金	銀行などからの借金	買掛金	商品の代金を後で支払う義務
資本金	株主から集めた元手	支払家賃	事務所・店舗の家賃
売上	商品売って得た収益	備品	パソコンなど長く使う道具
給料	従業員に払う人件費	受取手数料	手数料として受け取ったお金

【演習1】5要素の分類

動画を一時停止して、自分で解いてみましょう

次の勘定科目を「資産・負債・純資産・収益・費用」に分類しなさい。

①現金 ②借入金 ③資本金 ④売上 ⑤給料

⑥売掛金 ⑦買掛金 ⑧支払家賃 ⑨備品 ⑩受取手数料

【演習1 解答】 5要素の分類

科目	区分	科目	区分
①現金	資産	⑥売掛金	資産
②借入金	負債	⑦買掛金	負債
③資本金	純資産	⑧支払家賃	費用
④売上	収益	⑨備品	資産
⑤給料	費用	⑩受取手数料	収益

【演習2】 借方・貸方の判定

動画を一時停止して、自分で解いてみましょう

次の増減・発生は「借方」「貸方」どちらに記入するか答えなさい。

- ①現金が増加した ②買掛金が増加した ③資本金が増加した
④給料(費用)が発生した ⑤売上(収益)が発生した ⑥借入金が増加した
-
-

【演習2 解答】 借方・貸方の判定

取引	答え	取引	答え
①現金の増加	借方	④給料の発生	借方
②買掛金の増加	貸方	⑤売上の発生	貸方
③資本金の増加	貸方	⑥借入金の減少	借方

- ・ **ポイント:**負債は本来貸方の科目だが、「減少」のときは逆側の借方になる点に注意

【演習3】 基本の仕訳①

動画を一時停止して、自分で解いてみましょう

次の取引を仕訳しなさい。

- ①会社の設立にあたり、株主からの出資を受けて現金500,000円を受け取った。
 - ②現金50,000円を借り入れた。
 - ③商品を販売し、代金80,000円を現金で受け取った。
-
-
-

【演習3 解答】 基本の仕訳①

借方科目	金額	貸方科目	金額
①現金	500,000	資本金	500,000
②現金	50,000	借入金	50,000
③現金	80,000	売上	80,000

- ・ ①株主から集めた元手である資本金(純資産)が増え、その分だけ現金(資産)も増える
- ・ ②銀行などからお金を借りると現金(資産)が増え、同時に「後で返す義務」である借入金(負債)も増える
- ・ ③商品を買った瞬間に売上(収益)が発生し、代金をその場で現金で受け取っているため現金(資産)も増える

【演習4】 基本の仕訳②(複合)

動画を一時停止して、自分で解いてみましょう

次の取引を仕訳しなさい。

- ①事務用の備品30,000円を購入し、代金は現金で支払った。
 - ②従業員に給料200,000円を現金で支払った。
 - ③借入金100,000円を、利息2,000円とともに現金で返済した。
-
-
-

【演習4 解答】 基本の仕訳②(複合)

借方科目	金額	貸方科目	金額
①備品	30,000	現金	30,000
②給料	200,000	現金	200,000
③借入金	100,000	現金	102,000
支払利息	2,000		

- ・ ①備品を購入すると備品(資産)が増え、代金を支払った分だけ現金(資産)が減る
- ・ ②働きへの対価を支払うと給料という費用が発生し、支払った分だけ現金(資産)が減る
- ・ ③借入金を返済すると借入金(負債)が減り、利息は元本とは別に支払利息(費用)として計上する

ー 取引を分解すると、借入金100,000円の返済と利息2,000円の支払いに分けることができる

これを仕訳にすると:

借入金100,000／現金100,000

支払利息2,000／現金2,000

仕訳がわからなくなったら、このように取引を分解して考えるとよい

第1回のまとめ

- ・ 簿記の5要素:資産・負債・純資産、収益・費用
- ・ ホームポジション:資産・費用は借方(左)／負債・純資産・収益は貸方(右)
- ・ 仕訳のコツ：取引を原因と結果に分けて仕訳を考える
- ・ 簿記一巡の流れ:取引→仕訳→転記→決算整理→財務諸表

次回・第2回は「仕訳の超頻出13パターン①」。第1問45点の大半をここで得点できるようにします。